

期間：平成 30 年 11 月 8 日～12 月 7 日

場所：愛知県立大学

長久手キャンパス図書館 1 階ロビー

主催：愛知県立大学長久手キャンパス図書館

## 第九回 愛知県立大学所蔵貴重書展示・新収資料紹介

# 「つづら本—市井の蔵書をみる」

### 1. はじめに——展示概要

つづら本は、2012 年度、本学日本文化学部国語国文学科の学生から寄贈された資料です。この家で古くから読まれていた和装本や、写真・葉書・古文書などがひとところから見つかったもので、このうち、和装本や畳物・一枚物など合計 106 点を本学図書館で受入れました。

これらの資料が竹製のつづらの中にまとめて保管されていたことから、便宜上「つづら本」と称しています。

5 年ほどかけて書誌調査を行い、このたび本学図書館の貴重な資料としてご紹介できる運びとなりました。書誌調査にあたっては、当時国文学科に在籍していた学生もアルバイトとして関わっています。

今回は、つづら本の中でも特徴的な資料を展示し、新収資料として紹介します。

なお、解説監修および「代全継補實入之雙録」の解説執筆は本学教員三宅宏幸先生にお願いしました。この場をお借りして御礼申し上げます。



## 2. つづら本の特徴

つづら本の特徴は、権力者ではなく一般市民（名古屋の商家）が所持していた資料という点です。雑多な資料を寄せ集めたように見えますが、その内容は女子用の教養書、日蓮宗関連資料が目立ち、和歌・俳諧関係、節用集などの辞書類も含まれています。娘さんの教養のために収集されたものでしょうか。書入れなど日頃から使われていた痕跡も見られます。また、人情本などの読み物もいくつかありますが、ほとんどが端本（揃っていないバラの本）です。貸本屋のものらしい蔵書印も見られ、返却されないうまま今日まで伝わってきたようです。

全体的に水損が見られ、保存状態のよくないものが多いですが、市井の蔵書構成をうかがい知ることができる貴重な資料群といえるでしょう。

## 3. 貸本屋「大惣」と「書林大野屋」

（※文中で紹介しているつづら本はすべて展示しています）

『滑稽祇園守』上巻に、四角に「大」の字の印記があります。これは貸本屋「大惣」の蔵書印です。

大惣とは、明和4年から明治32年にかけて営業していた、名古屋の著名な貸本屋「大野屋惣八」のこと。貸本屋ですが、出版業も行っていました。坪内逍遙が熱心に通っていたことでも有名です。

貸本とされた書物は、一通り顧客間を廻ると別の貸本屋に転売されるのがふつうだったようですが、大惣は収集した書物を転売せずに蓄蔵していました。それらの蔵書は、明治後年の営業不振に伴い売却され散逸しましたが、その一部は国立国会図書館や京都大学など各地の図書館に所蔵されています。

そんな”大惣本”の1冊が今回、本学の蔵書にも加わることになりました。

蔵書を処分する際に作られたといわれる大惣蔵書目録（早稲田大学蔵、『大惣蔵書目録と研究』に翻刻所収）の中にも「祇園守」という書名が見られます。

さて、『江戸堅木浪花梅』下巻の冒頭にも次のような蔵書印がありますが、「大惣」とは所付け（住所）が異なります。

「尾州名古屋/書林大野屋/本町七丁目」

また、『播州舞子濱』の後見返しにも、これと同一と思われる大野屋の広告があります。

「御薬あらいこ／かみそめ油／取次所 尾州名古屋本町七丁目 大の屋嘉兵衛」

江戸時代の貸本屋は、薬や日用品も取り扱っていましたが、この大野屋もそうした貸本屋のひとつだったのかもしれない。

この大野屋については、太田正弘著『尾張出版文化史』付録の「尾張書肆聚覧」に「大野屋喜兵衛 本町七丁目 天保」という記載があり、同一の書肆と考えられます。また、服部仁氏「もう一軒の名古屋の貸本屋「書林大野屋」」（『貸本文化』20号、2004年10月）でも報告されています。

#### 4. さいごに——「つづら」について

「つづら本」が入れられていた容器は、縦 43.5cm×横 63.0cm×高さ 18.5cm の竹製の編み籠に和紙を貼ったものです。かなり劣化していて、破れた部分を見ると墨で文字が書かれており、反古紙が使われていることがわかります。

つづらの底面中央には約 7cm×6cm の貼紙があり、

「尾州名古屋／大野屋兵助／本町袋町角」

と記されています。こちらの大野屋については、調査した限り同じ所付けの書肆は見つかっていません。貸本屋でない可能性もありますが、「大惣」の周辺に複数の「大野屋」が存在していたことを示す手がかりとして興味深いものです。

先にも述べた通り、容器も含めて大半の資料の保存状態が悪く、調査を行うのも一苦勞でしたが、ひとつひとつ丁寧に調べることで、思いがけず貴重な資料や情報が見つかりました。

今回の展示テーマは「市井の蔵書をみる」。一見、雑多でなんのことはなさそうな資料でも、権威ある人の蔵書や豪華な書物とはまた異なる価値を見つけられるということが、皆さんに伝われば幸いです。

## <展示資料解説>

### 【読み物】

らくちゅうたい かゆめものがたり  
『[洛中大火夢物語]』

[著者不明]

[元治元(1864)年] 刊本 1冊 災異

元治元年の禁門の変(蛤御門の変)の戦火による火災の様子を記した資料。書名は「夢物語」だが、内容は被害の規模や火災直後の人々の様子を記録風に記したものである。紫色に塗りつぶされた部分が火災により被害が出た箇所、同一書名でも塗られ方が異なるものがある。

本書は保存状態が悪く、表紙が欠損しているため書名不詳だったが、寄贈後の調査により判明した。

こっけいぎおんまもり  
『滑稽祇園守 上』

[石橋庵増井作、玉鳳 他画]

[刊年不明] 刊本 1冊 滑稽本

つのがき  
角書は「津島土産後編」。名古屋の住人である主人公二人が、甚目寺から津島へ向かう道中の滑稽譚。作者は十返舎一九の弟子で、文末に「でや」がつくなど台詞に尾張方言を取り入れているのが特色である。また、本書には名古屋の貸本屋として有名な「大惣」こと大野屋惣八の蔵書印があり、後見返しの内側にも墨書きで「大のや」と書入れがある。

かたきうちうきぎ かめがせ  
『敵討浮木の亀背 後篇二卷』

[竹塚東子著、歌川国長画]

[刊年不明] 刊本 1冊 合巻

元禄 14(1701)年の亀山の仇討ちを典拠とした合巻。本書は物語の後半

で、逃がした亀の恩返しにより命を救われた娘（若菜）が、兄の仇討ちをするまでが描かれている。

本書には刊記がないが、初版は文化4(1807)年とされる。また、早稲田大学、東京都立中央図書館などの所蔵本は中本だが、本学所蔵本は半紙本。ただし、中本の版木が使われているため上部の余白が多い。あえて半紙本として刊行しているのは、価格（貸本なら見料）の設定に関わっている可能性が考えられる。

## 【一枚もの】

### だいたいつぎほみいりのすごろく 『代全継補實入之雙録』

ろうげつていありんど      さんかんじんこうらい      とよはらくにちか  
弄月亭有人録      山閑人交来補      豊原国周画      1枚刷

海老屋林之助寿梓      慶応頃（1865～1867）      縦60.4×横72.3cm

著名な歌舞伎役者や人形遣いの役者絵を配した飛び双六。各役者には当たり役および初代からの履歴を記す。具体的には、中村芝翫（筑波茂右衛門）、尾上菊次郎（雲切おたつ）、坂東彦三郎（葛の葉狐）、関三十郎（次郎右衛門）、沢村訥舛（安部の保名）、河原崎権十郎（小ねづみ忠次）、市川新車（光秀妻みさほ）、岩井紫若（紫太夫）、市川九蔵（中間市助）、市川小団次（霧太郎）、坂東三津五郎（おでん）、大谷友右衛門（安部貞任）、沢村田之助（笠森おせん）、中村仲蔵（夕ばり仁次郎）、中村福助（今村丹三郎）、河原崎国太郎（姫お梅）、市村家橋（人形遣ひ）である。「振出」には猿若勘三郎が配され、「上り」には「寿座附告條之図」として役者達が辞儀をする姿が描かれる。

作者の弄月亭有人は条野伝平（1832～1902）、『毎日新聞』（創刊時は『東京日日新聞』）の創刊者であり、日本画家である鏑木清方（1878～1972）の実父。幕末頃には数種の人情本を著述している。山閑人交来は有人や仮名垣魯文（1829～1894）とも交流する幕末における江戸粋人グループの一人。国周も幕末から明治にかけて活躍した浮世絵師であり、多くの役者絵を描いた。当代の文化人・粋人によって作成された双六といえよう。

## 【女性教養書】

おんなぶんぼうちよのたま  
『女 文宝千代珠』

[長友松軒書]、[北尾辰宣画]

明和4(1767)年 刊本 1冊 往来物

江戸時代に広く流布した女子用の教養書の一つ。手習書としても用いられた。本書は冒頭部分に小野小町を初めとする14人の女性歌人の列伝があり、続いて百人一首の和歌が歌人の絵入で収録されている。和歌の間には「みやげ進物」「かなづかひの心得」など様々な女性の教養の知識が豊富な挿絵とともに紹介される。また、色刷りのかわいらしい口絵も添えられており、読者層にあわせて作られていることがうかがえる。題簽の角書は「女重宝百人一首今川」。

## 【日蓮・仏教】

じゅうにけんれんしょう  
『十二牽連鈔』

日如著、[書写者不明]

寛政元(1789)年 写本 2冊 日蓮宗

別書名『<sup>ほっけじゅうにいんねんしょう</sup>法華十二因縁抄』。<sup>けじょうゆほん</sup>法華經の化城喩品第七に説かれる「十二因縁」に関して日如が記したもの。寛政元年刊本を書写したもので、巻末の印記も手書きで書き写されている。親子間で添削など行っていたのだから、ところどころ朱書で字やふりがなの間違いが訂正されている。

第九回 愛知県立大学所蔵貴重書展示・新収資料紹介

「つづら本―市井の蔵書をみる」展示資料

読み物

題名	テーマ
らくちゅうたいかゆめものがたり [洛中大火夢物語]	災異
こっけいぎおんまもり 滑稽祇園守 上	滑稽本
かたきうちきぎのかめがせ 敵討浮木の亀背 後篇二卷	合巻
ほくえつきだん 北越奇談	読本
ばんしゅうまいこのはま 播州舞子濱	読本
えどかたぎなにわのうめ 江戸堅木浪花梅 下	人情本

袖珍本

すきどうぐさだめのねだんづけ 数寄道具定値段附 後篇	茶道
りゅうこうちさとこのこえ 流行千里の声 下	俗謡
しゅうちゅうえいり かいかつうらん 袖中絵入 開化通覧	百科事典
しゅうちんぶかん [袖珍武鑑]	名鑑 武鑑
しがくれんきん 詩学聯錦	漢詩

## 一枚もの

だいだいつぎほみいりのすごろく  
代々継補實入之雙録

遊戯

## 女性教養書

題名	テーマ
おんなぶんぼうちよのたま 女文宝千代珠	往来物
おんなだいがくみさおかがみ 女大学操鑑	往来物
おんなていきん 女庭訓	往来物
おんなしよさつぶんこ 女書札文庫	往来物
ちよみぐさ 千代見草	日蓮

## 日蓮・仏教

じゅうにけんれんしょう 十二牽連鈔	日蓮
にちれんだいしょうにんごでんき 日蓮大聖人御傳記 一二	伝記
しながわもんどうき 品川問答記	浄土 日蓮
ぜんあくたねまきかがみ 善悪種蒔鏡	仏教
だいもくわだんしょう 題目和談抄	日蓮
かまくらでんちゅうもんどうき 鎌倉殿中間答記	日蓮